

## 松花堂庭園の概要

松花堂庭園の面積は、22,000 平方メートルを超え、絵のように美しい景観、伝統的な茶室と茶道（茶の湯）に関連する歴史的な建物、そして美術館があります。この広い庭園には、40 種以上の竹、約 300 本の椿、桜、モミジ、アジサイ、そしてその他の多種多様な植物があるおかげで、ここには季節を問わず楽しめるものがあります。訪問者は、松花堂庭園のゆったりと蛇行する小道を歩きながら、いくつかの種類の茶屋建築を眺めたり、庭園の池の色とりどりの鯉に餌をやったり、静かな雰囲気を楽しんだりすることもできます。

この庭園の名前は、僧侶であり優れた茶師、そして芸術家であり、当時の三大書家の一人とみなされていた松花堂昭乗（1584～1639）に由来しています。昭乗は、かつて神道と仏教を融合して信仰し八幡エリアの宗教と文化の中心地でもあった、男山の石清水八幡宮寺に住んでいました。彼の草庵と彼の隠居寺の客殿は現在、昭乗の晩年の生活を想像させてくれる松花堂庭園の、内園に保存されています。緑豊かな内園には、古代の古墳が組み込まれており、国の名勝に指定されています。

八幡市は、八幡の文化的な遺産の保存と振興を図るために、1977 年に松花堂庭園を設立しました。草庵と寺院の客殿に加えて、茶室建築の進化のさまざまな段階を表す伝統的な茶室の 3 つの復元が、外園に追加されました。

それぞれの茶室は、松、竹、梅という、日本の芸術や詩によく登場する縁起のいい 3 つの植物の一つにちなんで名づけられました。これらの茶室は、茶会やその他の文化イベントの開催にも定期的にご利用されています。

松花堂美術館は、松花堂庭園の正面入口の右側にあります。美術館では、松花堂昭乗の生涯と作品に焦点を当てた常設展を開催しており、また、年間を通じて、男山と八幡の歴史・文化に関する作品を展示する企画展を開催しています。美術館の隣には、京都吉兆 松花堂店という有名な日本料亭があり、松花堂昭乗に影響を受けた「松花堂弁当」を提供しています。